

特集

第63回全国ナシ研究大会福島県大会開催



11日の研究大会（パルセいいざか）

全国果樹研究連合会・第63回全国ナシ研究大会実行委員会は7月10日～11日、福島県での開催が、昭和50年以来44年ぶりとなる、第63回全国ナシ研究大会福島県大会を開催しました。

10日の園地視察は、福島市の「福島県農業総合センター果樹研究所」、ふくしま未来農業協同組合管内の「穴戸薫氏園地」「石田仁一氏園地」、福島さくら農業協同組合管内の「谷代栄一氏園地」の4園地で実施しました。県外からは約410名が参加し、各園地では園地の特徴や栽培方針・技術の説明をし、生産者同士の情報交換を図りました。

11日の研究大会は、福島市の「パルセいいざか」で開催し、県外・県内から約820名が参加しました。

第63回全国ナシ研究大会福島県大会は「未来へ繋ぐ果樹産業〜令和時代のナシ産地づくり〜」を大会テーマとし、基調講演・事例発表が行われました。

事例発表に先立ち、全国果樹研究連合会・寺地政明会長兼ナシ部会長、第63回全国ナシ研究大会実行委員会・菅野孝志委員長が主催者あいさつを行い、福島県・内堀雅雄県知事、福島市・木幡浩市長、郡山市・品川萬里市長から歓迎あいさつ、農林水産省東北農政局・川合靖洋局長から来賓祝辞をいただきました。

全国果樹研究連合会会長賞は、福島市の石田仁一氏が受賞されました。石田仁一氏は、旧新ふくしま農業協同組合なし専門部会長として地域生産者を統率し、新技術であるジョイント仕立てを取り入れ、早期多収と省力化栽培を実現し地域への普及に努めました。また、原発事故による風評被害払拭に積極的に取り組み、消費地へ何度も足を運び、率先して県産ナシの安全性PR活動に取組み、自身も多くの報道取材や視察対応し貢献されました。

続いて、福島県農林水産部園芸課・長谷川守人課長から「福島県の果樹の概要」について、説明を頂きました。

事例発表として、ふくしま未来農業協同組合そうま地区なし部会・坂下耕一氏より「震災からの復興」、上都賀農業協同組合梨部・渡辺克浩氏より「ナシ盛土式根圏制御栽培法の実践」、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 品種育種領域ナシ・クリ育種ユニット・齋藤寿広ユニットリーダーより「近年のナシの育種動向」について、発表が行われました。

記念講演として、イオンリテール株式会社グループ商品本部 海外商品部 食品輸出担当部・頼房伸吾部長から「国内・国外から見たナシの流通」について、ご講演をいただきました。

次に、農林水産省生産局園芸作物課・河野芳和生産専門官から「果樹関係の施策」について、説明を頂きました。

「大会決議」は、全国農業協同組合連合会福島県本部果実振興委員会なし専門部会・大和田一則部会長が読上げ、全会一致で採択されました。

最後に、熊本県が「次期開催県」として紹介され、閉会しました。



穴戸薫氏（JA ふくしま未来管内）



岡崎一博所長（果樹研究所）



谷代栄一氏（JA 福島さくら管内）



石田仁一氏（JA ふくしま未来管内）

各園地において、園地の特徴や栽培方針、技術の説明をいただきました。